

清水廃寺

岡山市教育委員会文化財課 西田和浩



図1 遺跡位置図

【遺跡の概要】

清水廃寺は岡山市北区芳賀に所在する。過去に瓦の出土は知られているものの、建物等の存在は知られておらず伽藍配置は不明である。平安時代末期頃の創建と位置付けられている。

農業用ため池の堤防改修に伴い発掘調査した。期間は平成15（2003）年6月4日から9月30日、調査面積90㎡である。

調査の結果、堤防下の水路予定地から鎌倉・室町時代の中世瓦が多量に出土した。また、室町時代の瓦窯がみつかった。瓦窯の構造は半地下式の分焰壁を持つロストル式の平窯と推測される。瓦の出土状況から瓦窯は焼成途中で放棄されたものとみられる。原因は不明であるが、窯の崩落が可能性として考えられる。窯詰め状態の瓦窯という貴重な事例となった。出土した瓦から、瓦窯は14世紀後半から15世紀代に操業されていたとみられる。

県下の中世瓦窯の調査例は多くなく、貴重な例となる。調査後、瓦窯は現状保存されることとなり遺構面を保護して埋め戻しを行った。

古代・中世の文献には清水廃寺に関する記事はみられず、実態は不明であるが、慶安年間（1648～1652）頃と推定される「妙國寺本末寺壇連判状」には津高郡上芳賀村の寺院として清水寺の名が記されており、寛文元年（1661）の「妙國寺本末諸寺誓状」に清水寺の名はみえず、何らかの理由で廃寺になったものと考えられる。

【文献】

岡山市教育委員会2017『清水廃寺瓦窯跡』

【交通】

中鉄バス 芳賀佐山方面 バス停「上芳賀」下車 徒歩約30分

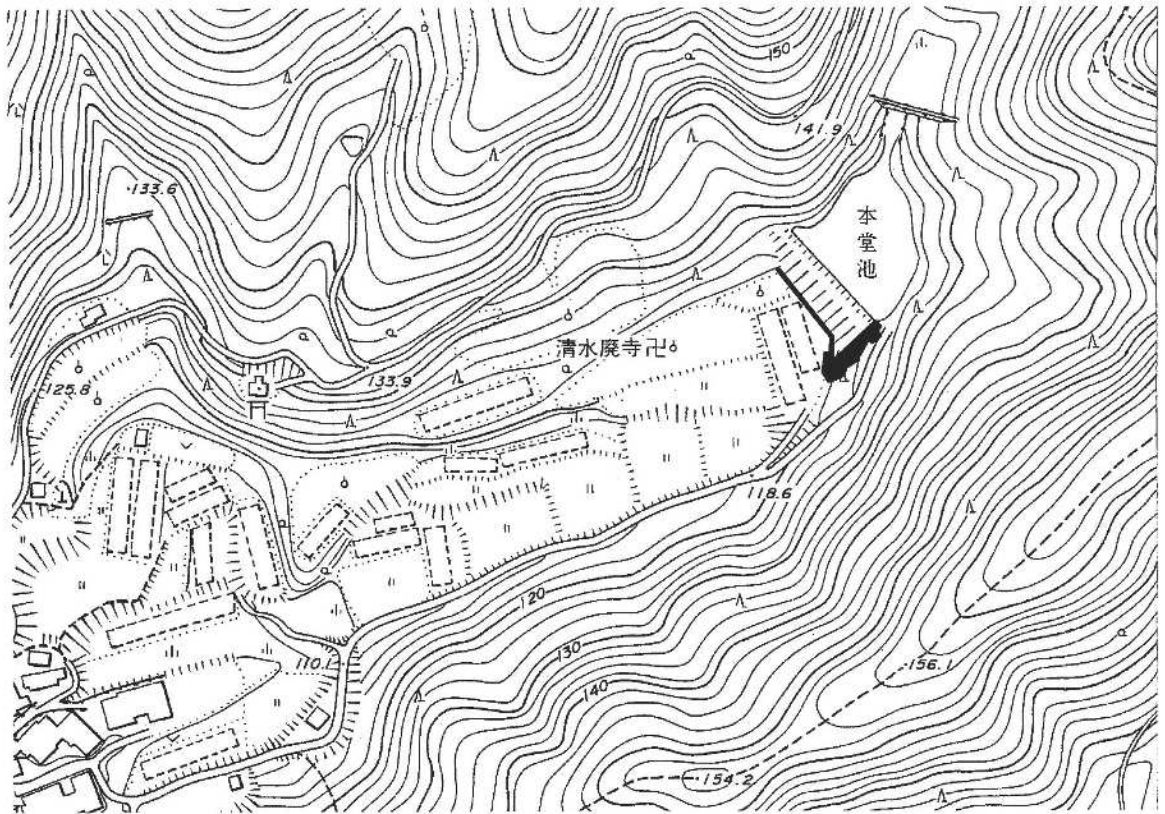


図2 調査位置図

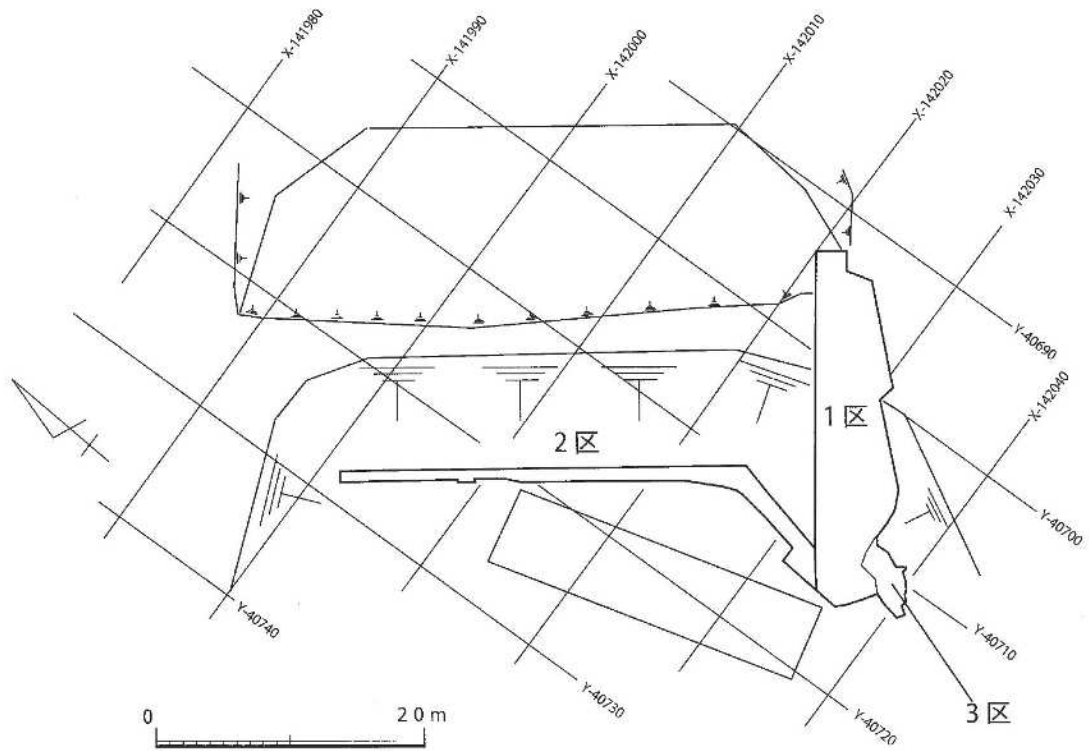


図3 調査区配置図